

初勝利への “DO OWN JOB!”

ルネサスハリケーンズ ステップアップへの算段



ルネサスハリケーンズがネクストステップを踏み出そうとしている。05年のXリーグ昇格以来、リーグ戦では2シーズン全敗を喫しているが、すべての試合を最後まで全力で戦った彼らにとっては、いずれの試合も意味のあるものとなった。自分たちの武器は何なのか、そして、勝利するためには何が必要なのか…。Xリーグ3年目の今季、過去2年間の敗戦から洗い出された課題をクリアし、Xリーグで勝利するチームとなるべくハリケーンズ戦士たちは燃えている。

「プレーは一人でも役割を果たせなければ成立しない」。ドノバン・ヘッドコーチはチームワークの大切さを強調する。強固なチームワークはハリケーンズの大きな武器の一つだ

本物のフットボールを 追求する環境

「今年はXリーグで勝つことを目的に練習に取り組んでいく」と、ハリケーンズ5年目を迎えるWR 櫻内政幸（明治大）は、意気込みを語っている。

05年、創部27年目にして初のXリーグ昇格を果たしたハリケーンズだが、過去2年間はリーグ戦全敗に終わった。すべての試合に勝利するために全力の準備と気概を持って臨んだことは言うまでもない。しかし、「昨年まではXリーグのフットボールを体験するという気持ちも強かった」と、櫻内は打ち明ける。

ハリケーンズには大学時代、東西学生1部リーグで活躍した選手はほとんどいない。2、3部やエリアリーグ、地方リーグや同好会出身者が選手の8割を占めている。櫻内自身も明治大のクラブチーム出身者だ。ハリケーンズにとって、過去2シーズンはトップレベルのフットボールがどんなものか、体験を得るために必要な時間だった。

上位チームには大差をつけられることもあった。しかし、彼らほどの試合も最後まで闘志を剥き出して全力で戦った。その成果は入替戦に表れていた。05年シーズンは前年の入替戦で41対33の辛勝だったハスキーズを相手に30対13の快勝。昨シーズンの入替戦もエースQB皆川大（神奈川大）を負傷で欠きながらもブルザイズ東京をまったく寄せ付けずに26対0の快勝。ハリケーンズはXリーグの戦いを経験したことで確実に成長を遂げていた。

過去2年間に導き出された課題をクリアして、今季Xリーグでの勝利を勝ちとろうと意気込みハリケーンズだが、彼らにとって大きな財産となっているのが、充実した環境だ。

練習拠点である東京・小平市の（株）



「世界に通用する人間を育てる」ことも、チーム哲学の一つ。その一環としてドノバン・ヘッドコーチとのコミュニケーションはすべて英語で行われているが、ドノバン・コーチは細かいテクニックまで、選手が理解するまで丁寧に指導してくれる

のコーチを経て、80、86年にはモントナ大をヘッドコーチとして率いた。

そして、86、91年にはカナディアンフットボールリーグ（CFL）のB・Cライオンズをヘッドコーチとして率い、88年にグレイカップ（CFL決勝）に進出するなど、本場米国内カレッジやプロフットボールの世界でも実績を持つ本格派コーチだ。また、長いキャリアの中で培われたコーチ人脈も広い。

NFLで05、06年と2年連続ワールドボウル出場を果たしているアムステルダム・アドミラルズのバート・アンドロスヘッドコーチ（モントナ大81年卒）、現ワイオミング大マウンテンウエストカンファレンスのジョー・グレン・ヘッドコーチ（サウスダコタ大71年卒）らは、ドノバン・コーチの教え子。彼らとは今でも親交が深い。

「本場で実績を残しているドノバン・コーチに本物のフットボールを教えてもらうことができるのは、自分にとって一番の魅力でした」



本拠はルネサステクノロジー武蔵事業所内のグラウンド。テンポよく進む練習が選手の集中力とスタミナを養う



練習前後にはグラウンドに隣接するクラブハウスでミーティングが行われる



ミーティングルームの横には充実したウエイトトレーニング施設がある。選手は土日の練習時はもちろん、平日も利用することができる

明治大クラブチーム出身のR相庭剛彦は、8年前にハリケーンズの一員となった時に受けた感銘を今でも鮮明に覚えていて。そして、ドノバン・コーチの指導によって、チームとしてはもちろん、選手としても毎年成長を遂げる喜びを今でも味わっているという。

「本物のフットボールチームを作る」。それは、ハリケーンズが創部して以来の不变の目標である。

語弊を承知で言うならば、無名選手ばかりの陣容で3部リーグからXリーグに昇格するまでに成長を遂げられたのは、ドノバン・ヘッドコーチという本物の指導者と、フットボールをするために整えられた本格的な環境によって、選手達の可能性を見出し、伸ばしてきたからこそ実現できたのだろう。

ハリケーンズが求める 新人選手の素養

今季Xリーグでの勝利という一段階上のステージへと進むために、ハリケーンズが今抱えている最大の課題は新人選手の獲得だ。

昨年は在籍43名とXリーグで最も少ない選手数でシーズンを乗り切ったが、どのポジションもひとたび負傷者が出るとメンバーが足りずに急遽コンバートで補わざるを得ない状況だった。

「今年は春季シーズン中にと20名ほどの選手を獲得することが目標になっています」

C兼任の杉本耕平助監督（筑波大）は、今季のリクルーティングの目標を掲げる。Xリーグに所属するクラブチームは15名の新人登録枠があるが、昨年の規定改正によって、総数で60名に満たないチームは、15名以上の新人獲得が認められている。

「私が選手に求めるのはアビリティ、アティテュード、メンタルの3つ。アビリティとは、自分は何ができるのか、アティテュードとは自分がチームに対して何をしたいか、そしてメンタルとはビッグハートを持っているか、ということだ」

ドノバン・ヘッドコーチは、ハリケーンズが求めている新人選手の素養を説明する。大学時代の経歴は関係ない。一つでも自分が誇れる武器があり、Xリーグのフットボールに挑戦したいという意志とその意志を貫くメンタルタフネスを持つていれば、それを活かして、伸ばす環境がハリケーンズにはある。

昨年、新人としてハリケーンズの一員となったOL千野智久（東京学芸大）は、3つの要素を持った選手の一人だ。

大学3年時に3部リーグから2部リーグに昇格を経験。卒業後2年間は教員の仕事に専念していたが、再びフットボールをしたいと思い、ハリケーンズの一員になった。ハリケーンズを選んだ理由は、「どうせやるならXリーグで力を試してみたいから」と、できることから下から上へと上がっていく環境でプレーしたいという思いからだ。189センチの長身を持つ千野は昨シーズン、スターターとしてほとんどの試合に出場。この経験が今季の目標へと繋がった。

「上位のチームと比べればまだまだ未熟な部分はあるかもしれませんが、やっているという感覚は掴むことができました。昨年対面に有名選手がいたりして、がむしゃらにプレーすることが一杯でしたが、今年は対等に戦えるメンタルを持つて臨めるようにしたい。頼もしいのはハリケーンズには、上にながっているという意思を持ったチームメイトたちがいることです。『Do Own Job』を実践して、勝利を目指したい」

「Do Own Job」とは、ハリケーンズが長年掲げているチームスローガンだ。「フットボールは最大のチームスポーツ。一人でも自分の仕事を果さなければプレーは成立しない。だからこそ、一人一人が役割を全うすることに集中しなければならぬ」と、ドノバン・ヘッドコーチはスローガンの意味を説明する。

「Xリーグでの勝利」という目標に向かって、より強固なチームワークを実現するためにハリケーンズは新たな才能の参加を待望している。

新人選手募集

ルネサスハリケーンズは、今季、Xリーグでの勝利を我々と共に目指す新人選手を募集しています。

■参加資格

生計を支える定職を持っている選手（大学院生可）。学生時代のリーグ不問。フットボール選手として成長したいという意志を持ち、ハリケーンズの一員としてチームの規律を遵守できる方。フットボール未経験で、他スポーツ経験者は応相談。

■募集ポジション

全ポジション（特にOL/DL）

■練習場所

（株）ルネサステクノロジー武蔵事業所内グラウンドおよびクラブハウス（東京都小平市上水本町5-20-1）

■練習日程

基本的に毎週土・日曜日

■待遇

- ◎ユニフォーム・防具一式支給
- ◎遠方からの参加者（100km以上）には都内までの実費交通費を支給

■参加申し込み・お問い合わせ

参加希望者および参加に関するお問い合わせは①氏名②生年月日③身長・体重・ポジション④出身大学・もしくは所属チーム名⑤連絡先を明記の上、ハリケーンズ事務局まで電子メールにてご連絡ください。後日担当者からご連絡いたします。

hurricanes@renesas.com